

## 『アーサー・フレデリック・シェルドン』

突皆様、お元気でしょうか。しばらくお会いできないのが寂しいですネ。この原稿は、お盆休みに書いています。

毎朝、5時半に起床して、夙川を散歩しています。途中、苦楽園の川原でラジオ体操を楽しんでいます。みんな老人ばかりです、もちろん私もですが。人生で最も穏やかな時期だと実感し、これもすべて家族、特に家内とロータリーのおかげと感謝しています。

ところで歴史を振り返ると、天下を取るような人には、必ず横に参謀といえるNo.2が存在していました。

例えば、豊臣秀吉には実の弟秀長がいました。

秀長が存命中の秀吉は、すべてが順風満帆でうまくいき、信長の死後あつという間に天下人になりました。秀長の死後、豊臣内部が武闘派と実務派に分裂し豊臣家は滅びます。徳川家康には、本多正信という参謀がいて、石田三成の西軍に権謀術数をめぐらし、関ヶ原で勝利して家康を天下人に押し上げました。

ロータリーでは、いかがでしょうか。

1905年のロータリークラブ発足時、その主要な目的は親睦でした。

その後、せっかく一人一業種でたくさん仲間が集まったのだから、お互い商売に利用して、金儲けしたらどうだろうかという考え方が起こってきたのです。

当時のシカゴ・ロータリークラブには奉仕という概念はなかったのです。

このままの状態が続いていけば、ロータリーは仲良しクラブで終わっていたでしょう。

物質的相互扶助から決別し、それを加速させてのが、1908年にシカゴ・クラブに入会したアーサー・フレデリック・シェルドンです。

物質的相互扶助の代わりに、当時誰も考えつかない奉仕理念をロータリーに提唱しました。

会員の事業の発展という目的をそのまま温存し、その具体的な方法を従来の物質的相互扶助から、継続的に利益をもたらす顧客を確保することによって事業を発展させようという経営学に基づいた販売術に転換したのです。

一言で言うと「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」に象徴されます。

これによりロータリーは解き放され、世界的なクラブへと発展していきました。ポール・ハリスは創始者としてすばらしいロータリアンで、みんなに尊敬されていました。

そして、ポール・ハリスの参謀として、ロータリークラブを世界的な組織へと導いたのがアーサー・フレデリック・シェルドンだったのです。

最初のはなしにもどります。私には、全く上昇志向がありません。

その証拠に、私の手相で運命線が1cm程しかないのです。

家内と出会っていなければ、プータロー医師となっていたことは間違いありません。

彼女のお蔭で、やっと今に至ったと思っています。

参謀は大事です。感謝しかありません。

